

令和3年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,493	8,810	4,451	4,359	△ 3	△ 4
2 千 石	3,916	6,645	3,404	3,241	25	19
3 内 山	5,599	7,950	4,239	3,711	△ 24	△ 34
4 大 和	3,424	6,685	3,276	3,409	7	4
5 上 野	7,382	15,488	7,617	7,871	△ 1	9
6 高 見	7,277	13,298	6,360	6,938	△ 2	2
7 春 岡	6,815	11,002	5,771	5,231	△ 34	△ 36
8 田 代	11,208	21,886	10,405	11,481	△ 10	△ 31
9 東 山	10,322	19,352	9,456	9,896	△ 5	21
10 見 付	4,375	8,228	4,123	4,105	2	6
11 星 ケ 丘	3,448	6,777	3,029	3,748	△ 4	△ 17
12 自 由 ケ 丘	3,579	7,291	3,300	3,991	10	0
13 富 士 見 台	6,440	15,229	6,937	8,292	△ 4	△ 2
14 宮 根	3,775	8,106	3,755	4,351	9	3
15 千 代 田 橋	3,691	8,335	3,950	4,385	6	6
千 種 区 計	86,744	165,082	80,073	85,009	△ 28	△ 54
R2.10.1	88,261	165,853	81,002	84,851	△ 104	△ 180
対 前 年 比	△ 1517	△ 771	△ 929	158	76	126
名 古 屋 市	1,125,288	2,327,146	1,142,538	1,184,608	△ 190	△ 673
愛 知 県 (R3.9.1)	3,248,870	7,522,414	3,747,968	3,774,446	449	△ 962

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	84	106	△ 22	868	900	△ 32

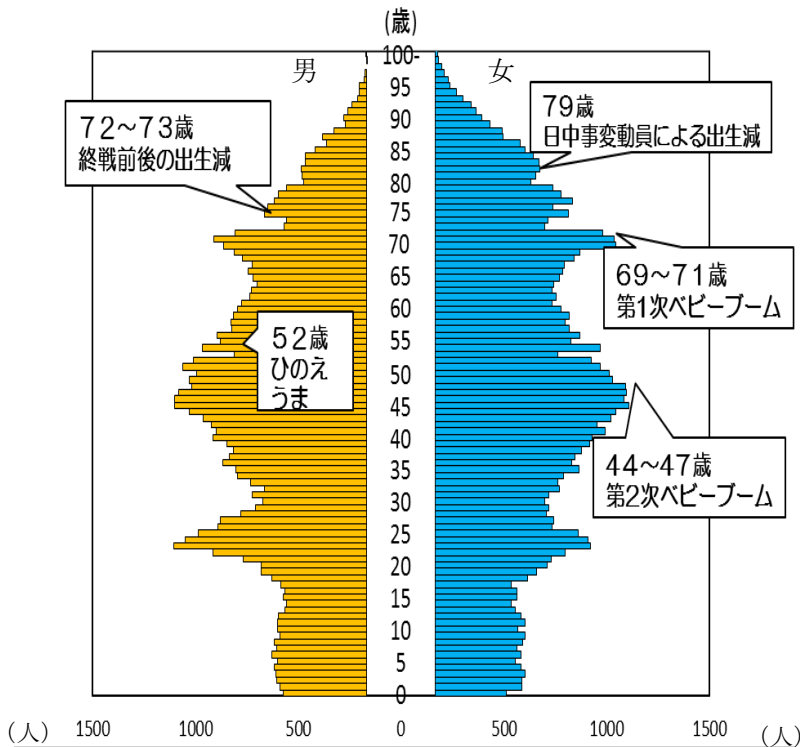
【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注1) 令和2年度の国勢調査の世帯数と人口は、確定値が出ていないため千種区人口は未掲載。
 注2) 世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

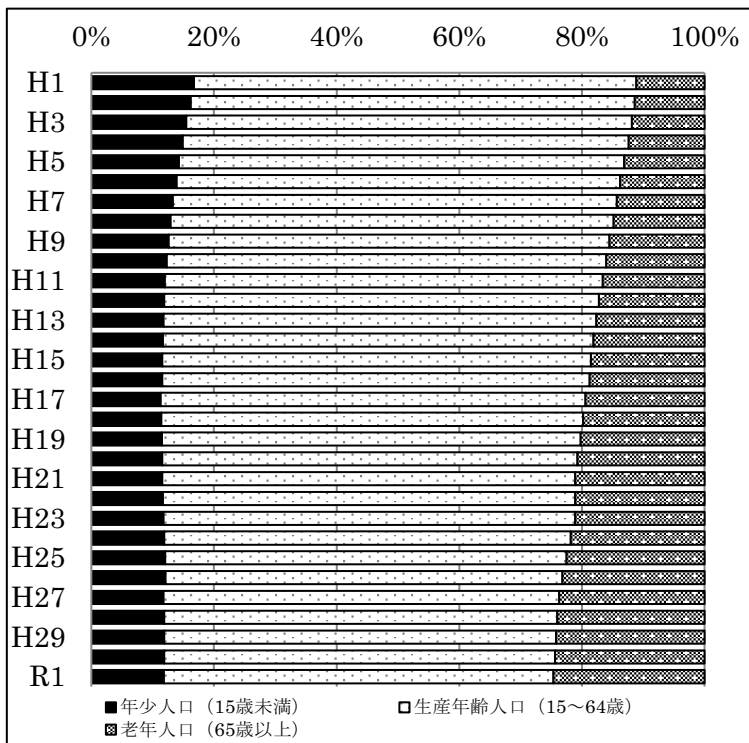
千種区の年齢各歳別人口構成と年齢3区分別人口の推移

今回は令和2年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢3区分別人口の推移を見ていきます。



令和元年10月1日現在の千種区の人口を年齢各歳別人口構成で見ると、79歳および72～73歳の年代は日中事変や第二次世界大戦の影響によって、また52歳は「ひのえうま」の影響により人口が落ち込んでいます。

また、69～71歳は第1次ベビーブームの影響によって、44～47歳は第2次ベビーブームの影響によって大幅な出生増となっています。千種区の人口ピラミッドは、この2回のベビーブームの影響に伴う2つのふくらみを持つ「ひょうたん型」となっています。



平成元年から令和元年の各年10月1日現在の年齢3区分人口の割合の推移を見てみます。平成元年と令和元年を比較してみると、年少人口(15歳未満)の割合は4.9ポイント、生産年齢人口(15～64歳)の割合は8.6ポイント減少したのに対し、老年人口(65歳以上)の3割合は13.5ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平成12年まで減少傾向でしたが、以降は横ばいとなっています。生産年齢人口の割合は平成7年をピークに減少。老年人口の割合は増加を続けています。

図2: 千種区の年齢3区分人口の割合の推移 (各年10月1日現在)